

感染症の登園基準

*必ず主治医の診断を受けてから登園してください。

*太枠は登園許可証が必要です。(登園許可書は園にあります。)

ホームページからダウンロードできます。

	病名	潜伏期間	感染可能期間	主な症状	登園基準
1	インフルエンザ	1～2日	感染後約10日	発熱、全身倦怠、筋肉痛、鼻カタル、咽喉痛、咳	発症した後5日を経過し、かつ解熱後3日を経過してから
2	百日咳	6～15日	感染後約3週間	発作性咳の長期反復、持続	特有の咳が消失したとき
3	はしか(麻疹)	10～12日	発疹出現の前後4～5日	上気道のカタル、発熱、粘膜性のコプリック班	発疹が伴う熱が下がった後3日を経過した元気がよいとき
4	おたふく風邪	14～24日	明らかに症状を示す7日間からその後9日間続く	発熱、耳下腺、舌下腺、顎下腺の腫瘍及び圧痛	耳下腺の腫が消失したとき
5	三日はしか	14～24日	発疹出現の前後7日間	種々の発疹、軽熱、リンパ腺腫大	発疹が消失したとき
6	水疱瘡(水痘)	14～24日	水疱発現2～後6日	軽熱、被覆部に発疹、斑点丘疹状→水疱→顆粒状かさぶた	すべての発疹がかさぶたになったとき
7	プール熱(咽頭結膜炎)	5～6日	潜伏期間～発症後約5日間	発熱、全身症状、咽頭炎と結膜炎の合併症	解熱し、主要症状がなくなった後2日を経過してから
8	結核	様々		発熱、咳、疲れやすい	感染の恐れがないと認められたとき
9	流行性角結膜炎(はやり目)	1週間以上	発症後2週間	軽熱、頭痛、全身倦怠結膜の炎症、目瞼浮腫、目やに	治癒するまで
10	急性出血性結膜炎	1～2日	発症後約4週間	流涙、結膜充血、目瞼浮腫、滲出液	治癒するまで
11	溶連菌感染症	2～4日	潜伏期後半～発症後約7日間	発熱、咽頭痛、扁桃腺炎、莓舌、頸部リンパ節炎、全身に発疹	有効治療を始めてから2～3日たって
12	アデノウイルス			扁桃腺炎、のどの晴れ、目やに、目の充血、結膜炎、嘔吐、下痢	他人への感染の恐れがないと医師が認めたとき
13	ヘルパンギーナ	2～7日		高熱、咽頭痛、咽頭に水疱	解熱し食事也十分できて元気になったとき
14	手足口病	2～7日	水疱消滅まで	感冒様症状、手足口に赤斑、→水疱	元気がよければ登園可能
15	りんご病(伝染性紅班)	17～18日	14日～20日	顔面赤斑特に頬部の赤斑性発疹	感染力はないので元気がよければ登園可能
16	乳児嘔吐下痢症(ロタウイルスによるもの)	不定期		発熱、下痢、嘔吐	主な症状が殆ど消失し主治医が登園して差し支えないと認められたとき
17	感染性胃腸炎(小型球形ウイルス・SRSV)	1～3日		発熱、下痢、腹痛	主な症状が殆ど消失し主治医が登園して差し支えないと認められたとき
18	マイコプラズマ肺炎(うつる肺炎)	10～24日		咳、発熱、呼吸困難(重症の場合)	症状が改善し、元気があれば登園可能
19	突発性発疹	約10日		高熱、3日後に全身発疹	主な症状が殆ど消失し主治医が登園して差し支えないと認められたとき
20	ヘルペス性歯肉口内炎(単純ヘルペス感染症)	2日～2週間		口内炎症	症状が改善し、元気があれば登園可能
21	とびひ(伝染性膿痂疹・皮膚化膿病)	2～10日	水疱消滅まで	主として豆粒大の水疱 自覚症状あまりなし	他人への感染の恐れがないと医師が認めたとき
22	RSウイルス感染症	2～10日		発熱、鼻水、咳 細気管支炎、気道炎、肺炎	他人への感染の恐れがないと医師が認めたとき